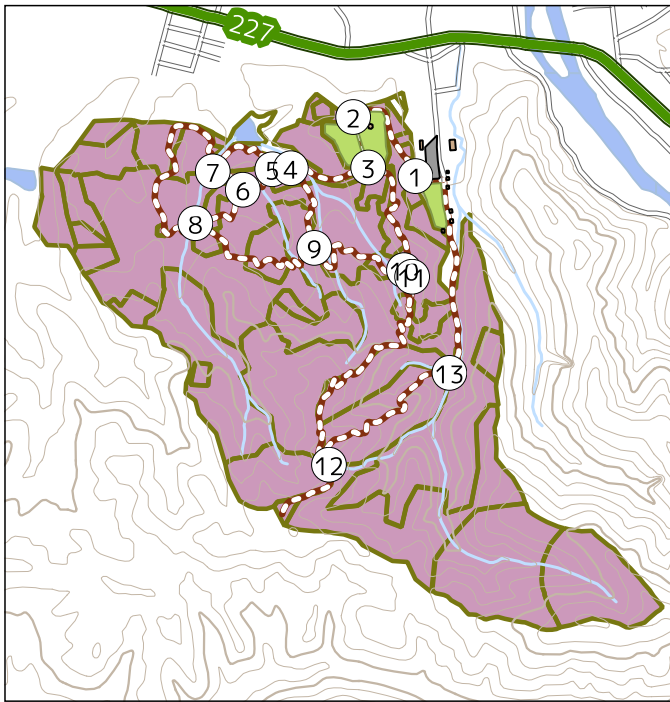
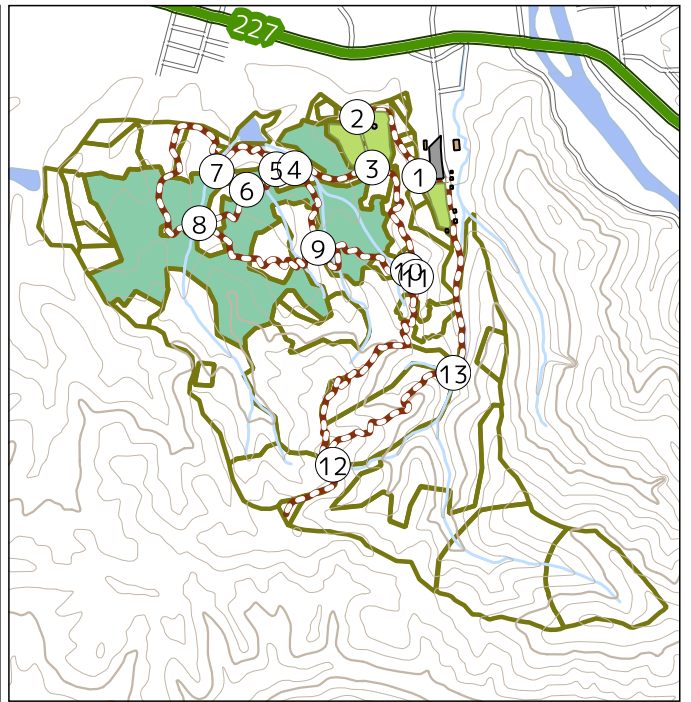
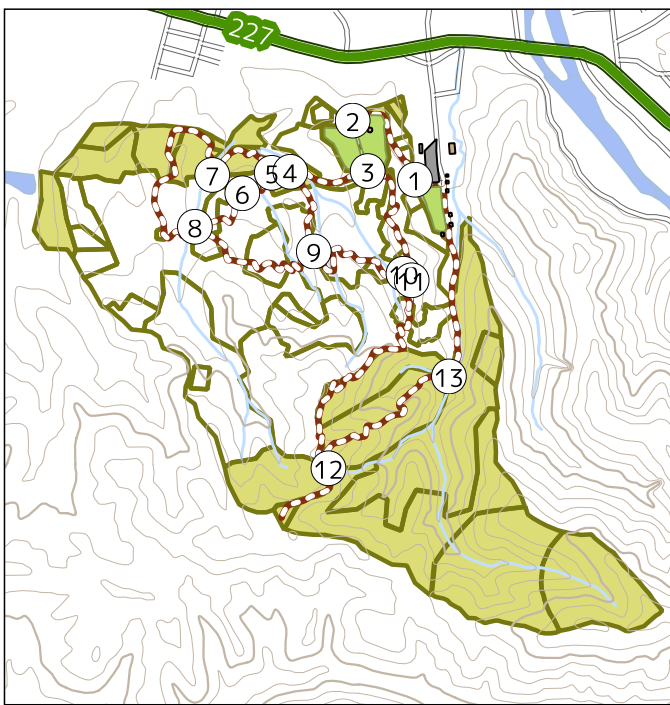




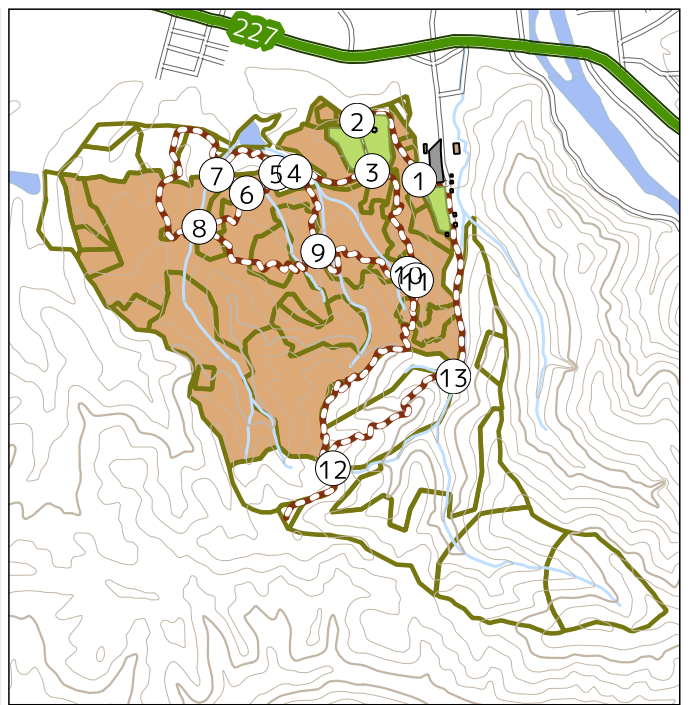
保安林



トドマツ母樹林



鳥獣保護区



特別鳥獣保護区

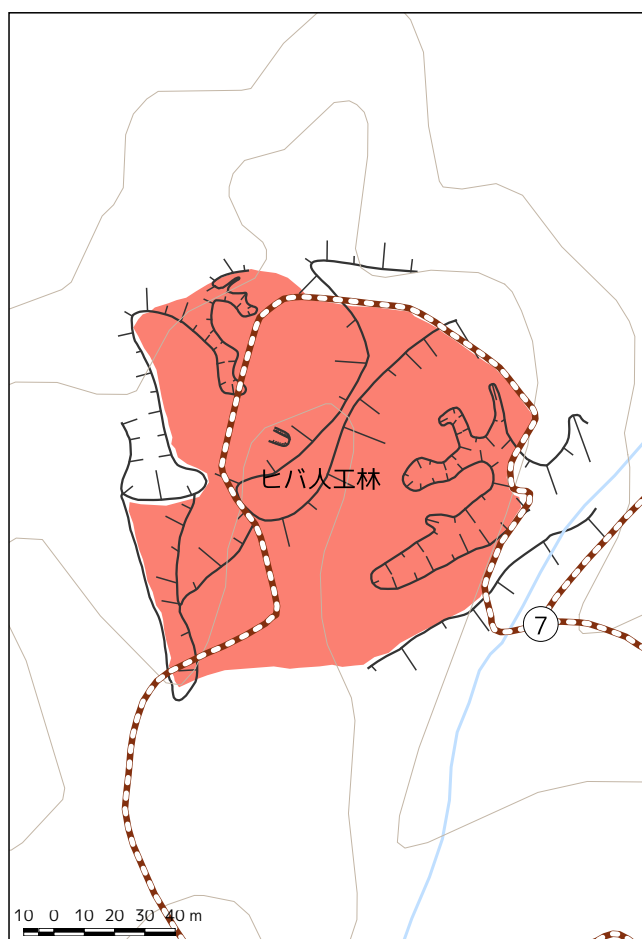
100 0 100 200 300 400 m

等高線及び河川データは国土地理院発行基盤地図情報のデータを使用し、遊歩道を除く道路データはOpenStreetmap(©OpenStreetmap contributors)のデータを使用しました。

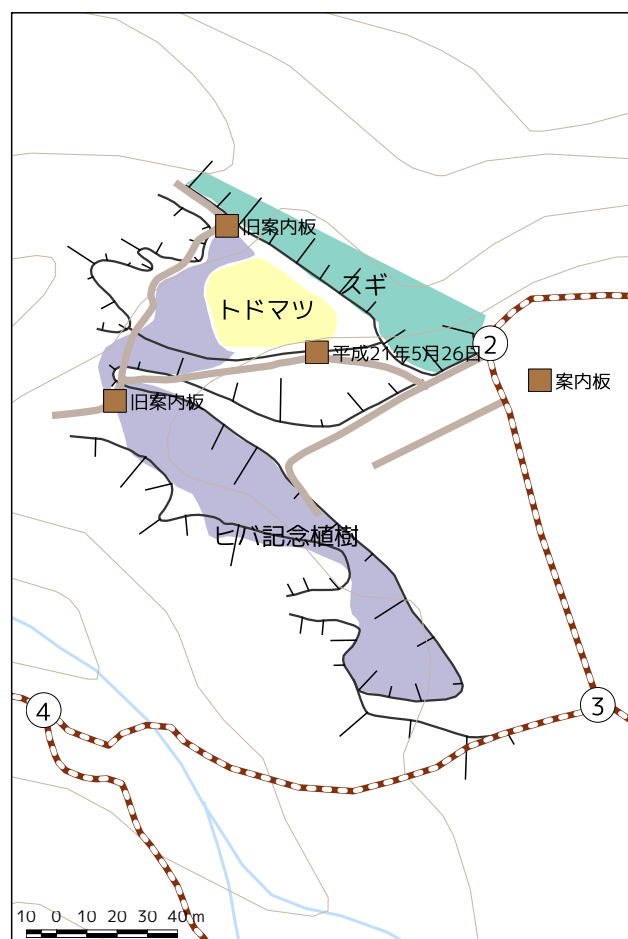
凡例	
遊歩道	
	遊歩道
	教育林範囲



ヒノキアスナロ人工林及び記念植樹域の位置



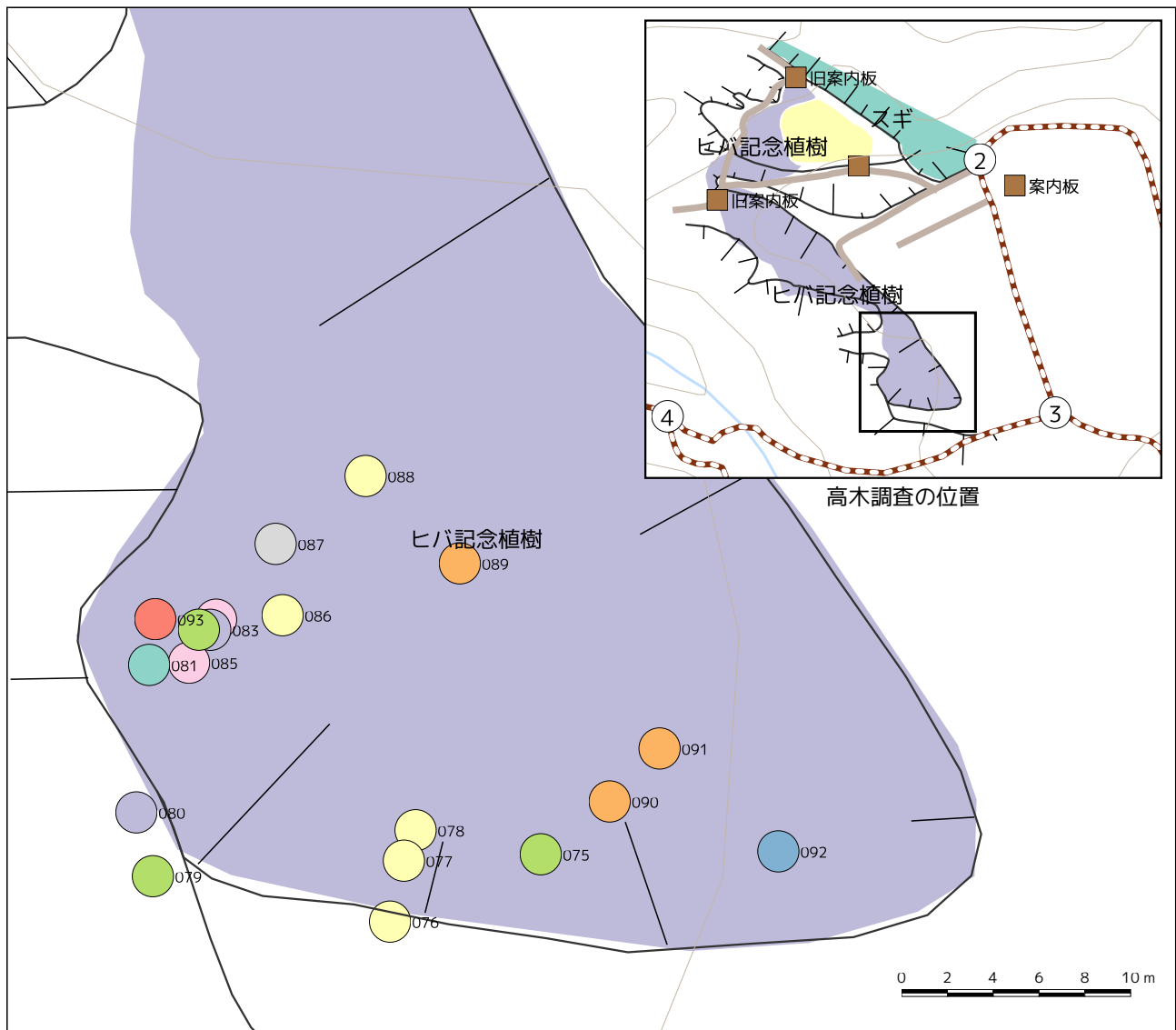
ヒノキアスナロ人工林



ヒノキアスナロ記念植樹域

等高線は国土地理院発行基盤地図情報のデータを使用し、遊歩道を除く道路データはOpenStreetmap(©OpenStreetmap contributors)のデータを使用しました。

土橋自然観察教育林ヒノキアスナロ人工林及び記念植樹域



凡例	
記念植樹域内高木	● トドマツ
● イタヤカエデ	● ヒバ
● キタコブシ	● ミズナラ
● スギ	● ヤマモミジ
● トチノキ	● 枯死木

id	kouboku_GP	樹種	幹周り	直径	樹高	備考
19	093	トチノキ	346	110.1	24	
18	092	トドマツ	258	82.1	21	
17	091	ヒバ	124	39.5	18	
16	090	ヒバ	82.5	26.3	16	
15	089	ヒバ	122	38.8	17	
14	088	キタコブシ	115.5	36.8	18	
13	087	枯死木		0.0	16	境界
12	086	キタコブシ	134	42.7	18	
11	085	ヤマモミジ	55	17.5	11	
10	084	ヤマモミジ	160	50.9	22	
9	083	スギ	61	19.4	10	
8	082	ミズナラ	190	60.5	22	
7	081	イタヤカエデ	110.4	35.1	18	
6	080	スギ	70.8	22.5	11	
5	079	ミズナラ	159	50.6	16.5	
4	078	キタコブシ	64	20.4	14	
3	077	キタコブシ	70	22.3	14	
2	076	キタコブシ	105	33.4	15	三股
1	075	ミズナラ	80.5	25.6	16	二股

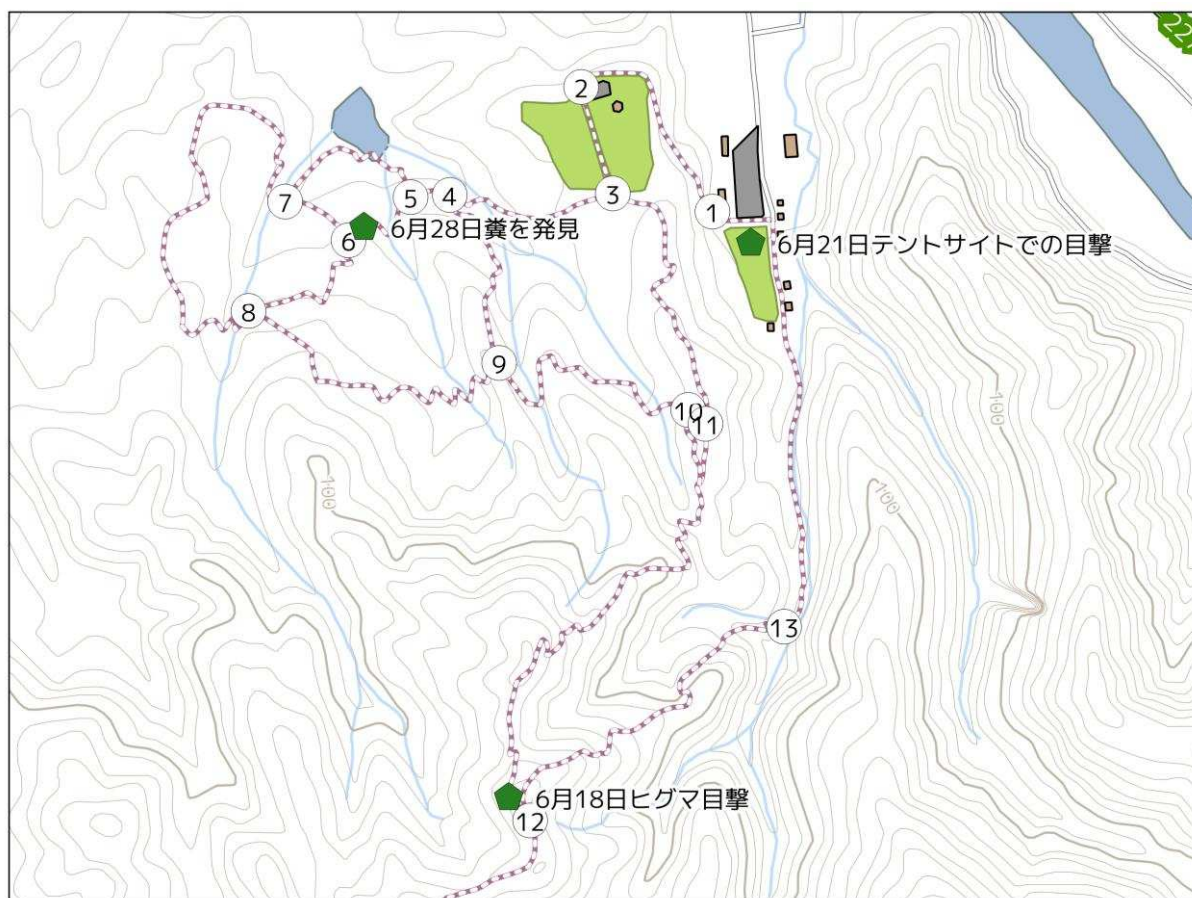
記念植樹域高木調査

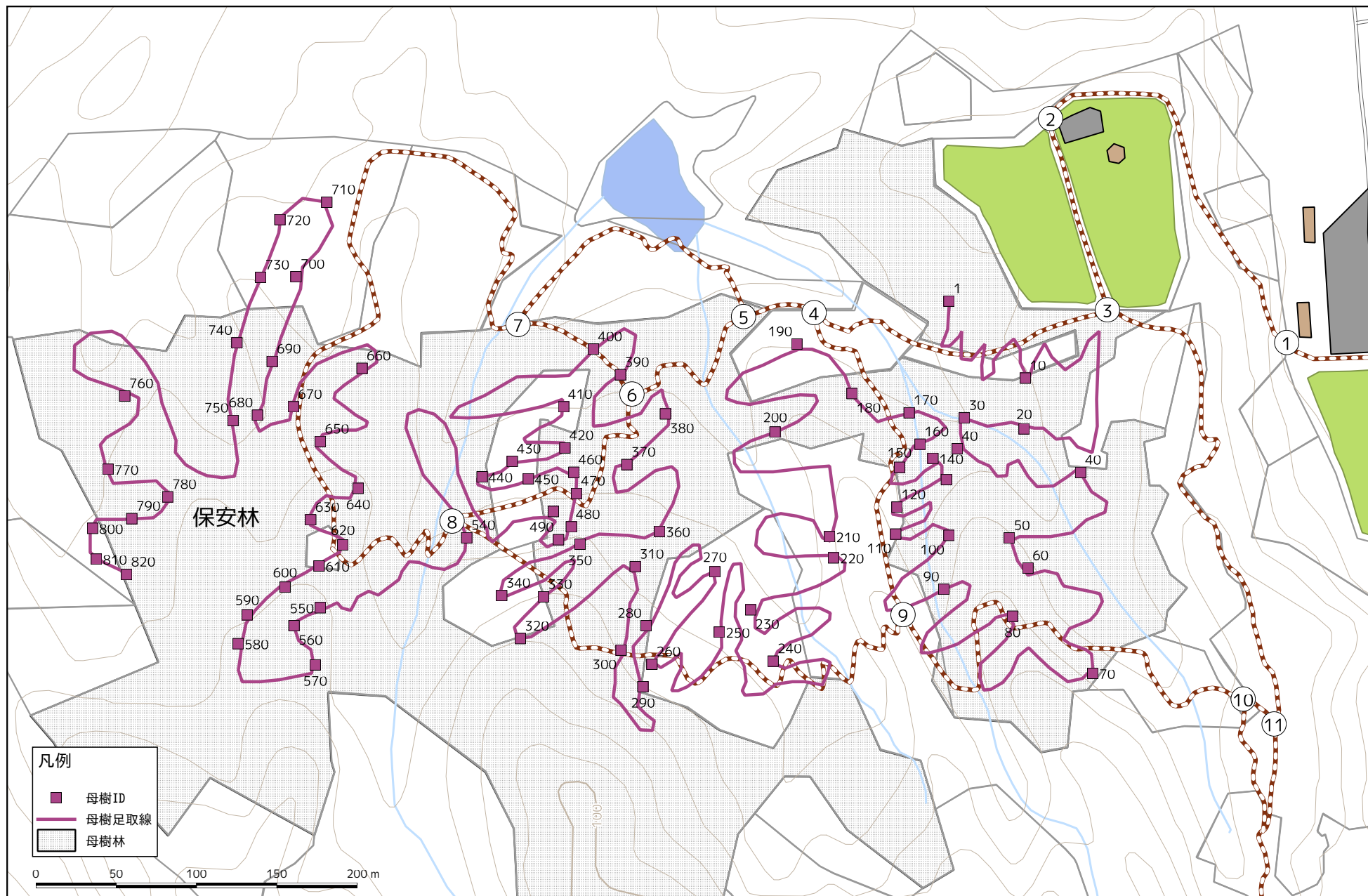
平成 29 年度土橋自然観察教育林ヒグマ対応状況

1. 経過

6 月 18 日	巡回中の監視員が「青年の樹」付近でヒグマを目撃 教育林遊歩道を立入禁止とする。
6 月 21 日	早朝、フリーテントサイトにヒグマが出没しているのを付近の住民の方が目撃し、宿泊客を通じて巡回監視員へ伝えられる。 遊歩道立入禁止措置を継続するとともに、フリーテントサイト、バンガロー、バーベキューコーナーの利用を 6 月 29 日まで停止する。
6 月 22 日	教育委員会職員による早朝巡回の開始
6 月 26 日	道南野生生物室鶴賀室長と対応を協議。誘引要因となるバーベキューコーナーの再開を遅らせること、巡回を継続して行うことなどの助言。
6 月 28 日	巡回監視員が小沼付近の遊歩道（⑥）でヒグマの糞を発見。遊歩道・バンガローを 7 月 6 日まで、フリーテントサイト・バーベキューコーナーを 7 月 12 日まで利用停止期間を延長する。
7 月 5 日	早朝巡回終了
7 月 6 日	遊歩道・バンガローの利用停止を解除する。
7 月 12 日	フリーテントサイト・バーベキューコーナーの利用停止を解除する。

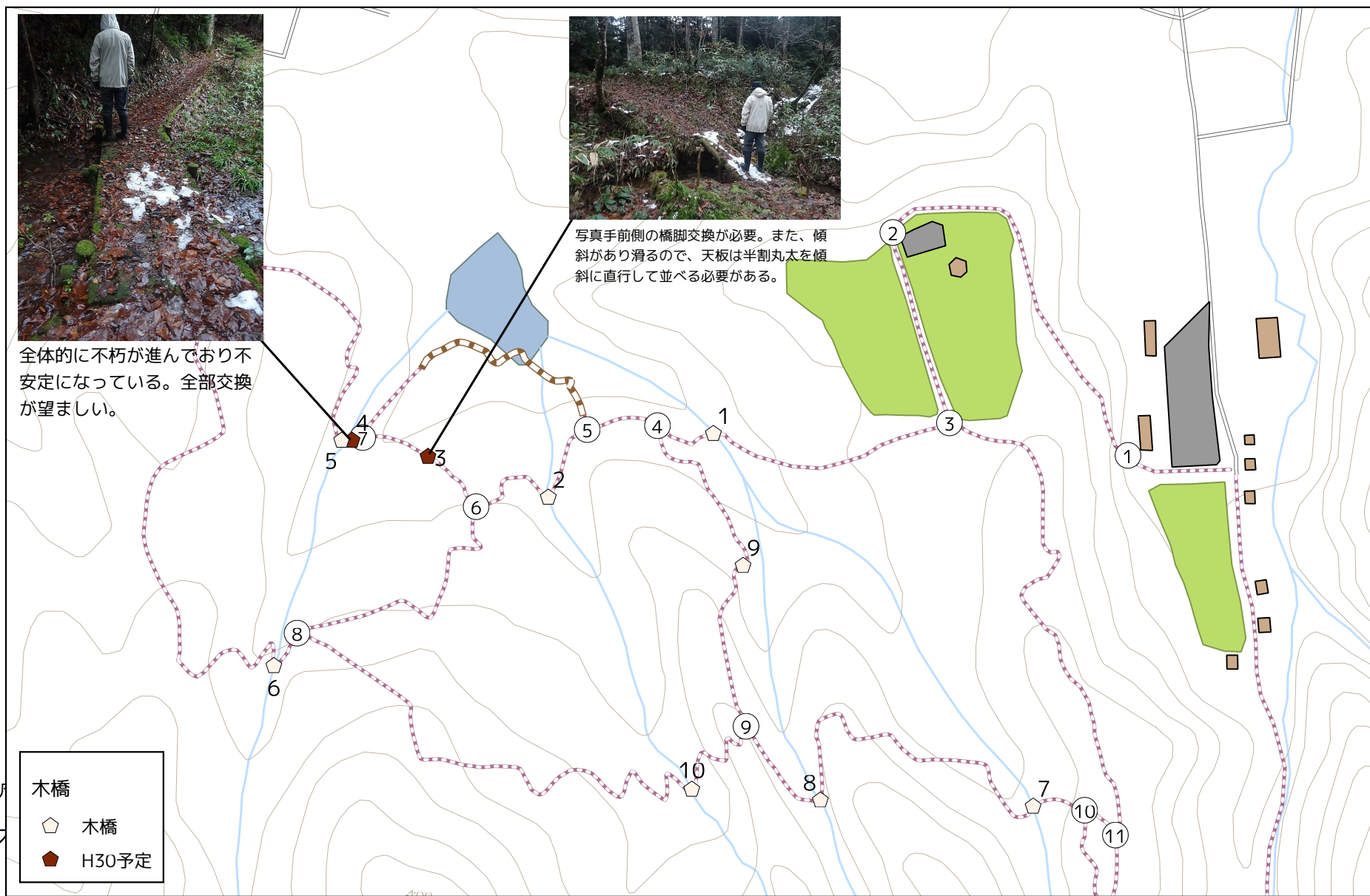
2. ヒグマ出沒位置



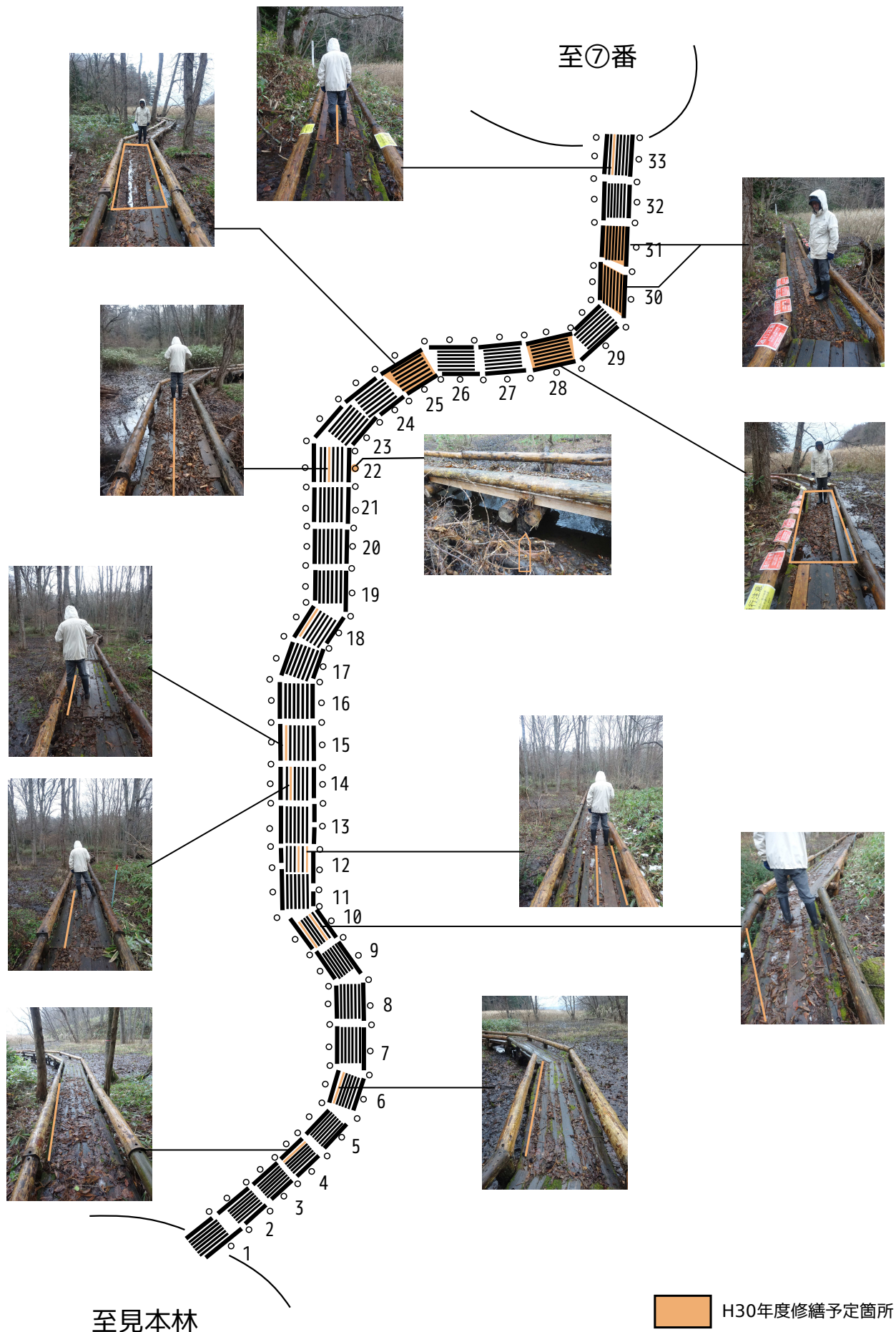


土橋自然観察教育林トドマツ母樹足取り図

等高線及び河川データは国土地理院発行基盤地図情報のデータを使用し、遊歩道を除く道路データはOpenStreetmap(©OpenStreetmap contributors)のデータを使用しました。



H30年度土橋自然観察教育林木橋修繕工事実施位置図

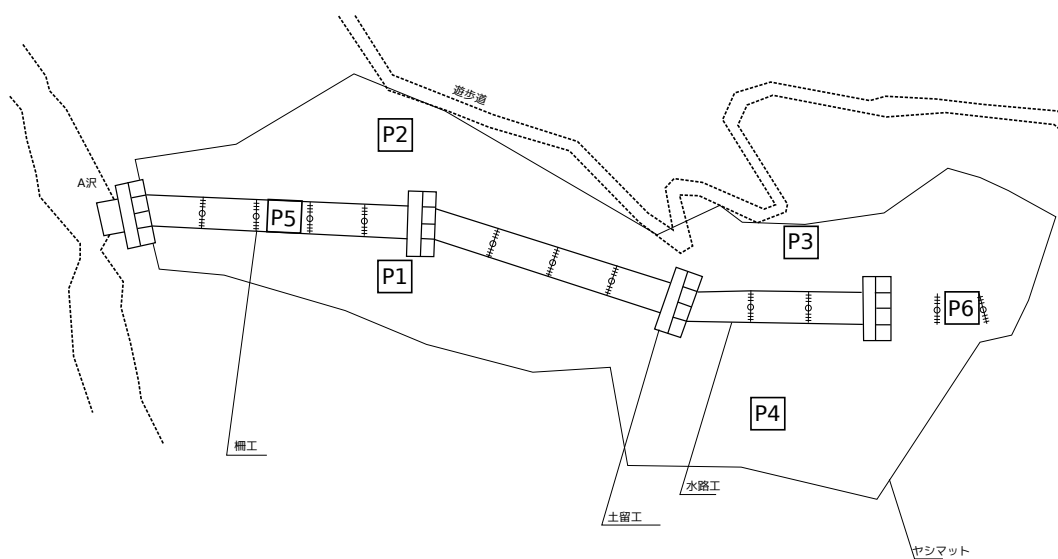


土橋自然観察教育林 A 沢植生調査報告

平成 29 年 12 月 5 日

1 調査の概要

- 畑内川上流の A 沢の植生調査である。
- 2m 四方の調査プロット（P1～ P6）が 6 箇所設置されている。
- P1～ P6 は平成 18 年から平成 24 年までは毎年調査を実施し、平成 25 年以降は調査インターバルを空けることとした。
- 平成 29 年度に 5 カ年のインターバルを経て再調査を実施した。
- 平成 29 年から畑内川本流の右岸に 2 箇所の調査プロット（P7～ P8）を設置した。



A沢山腹植生調査

図 1 A 沢プロット配置（P1～ P6）

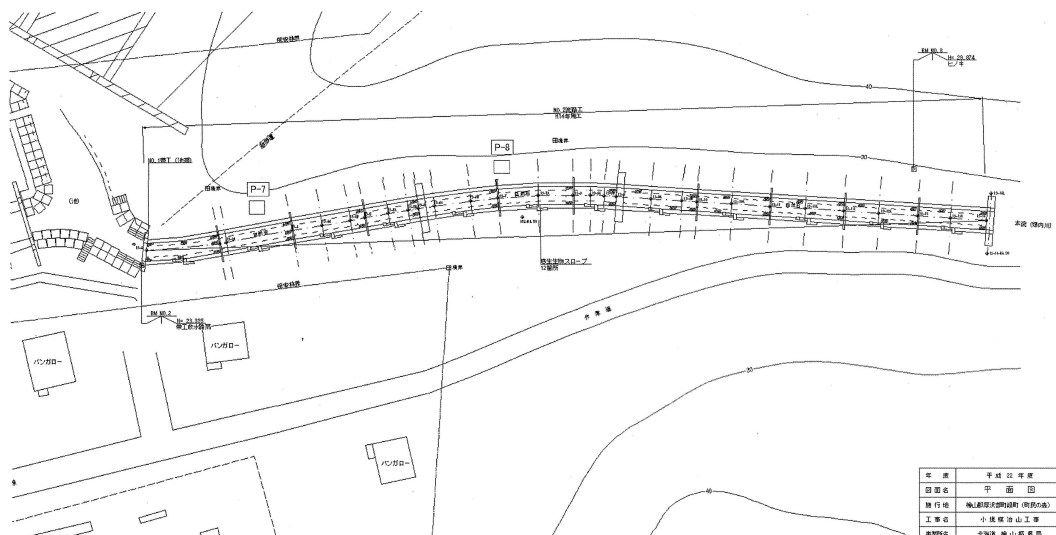


図 2 畑内沢プロット配置 (P7~ P8)

2 調査の結果

2.1 稚樹の出現数

検出された稚樹はイタヤカエデ、カツラ、ツルアジサイ、トドマツ、ハンノキ、ヒバ、ヤナギ、ロシラアジサイの 8 種類である。アジサイ類が 2 種類検出されているが、出現数は少ない。ハンノキとヤナギは湿潤な土地を好む樹種である。もっとも多く検出されているのはヒバである。

プロット別では P1~ P4 はほぼ同程度の個体数が確認されているが、P5 と P6 では出現数が少ない。調査年別の出現数の推移は、ヒバ、カツラで増加傾向である。

2.2 稚樹のサイズ

出現数の多い、カツラ、ツルアジサイ、ヒバ、ヤナギの 4 種についてサイズ（樹高）の比較を行った。カツラ、ヒバ、ヤナギは増加傾向にある。ツルアジサイは平成 22 年以降、生育個体が消滅傾向にある。

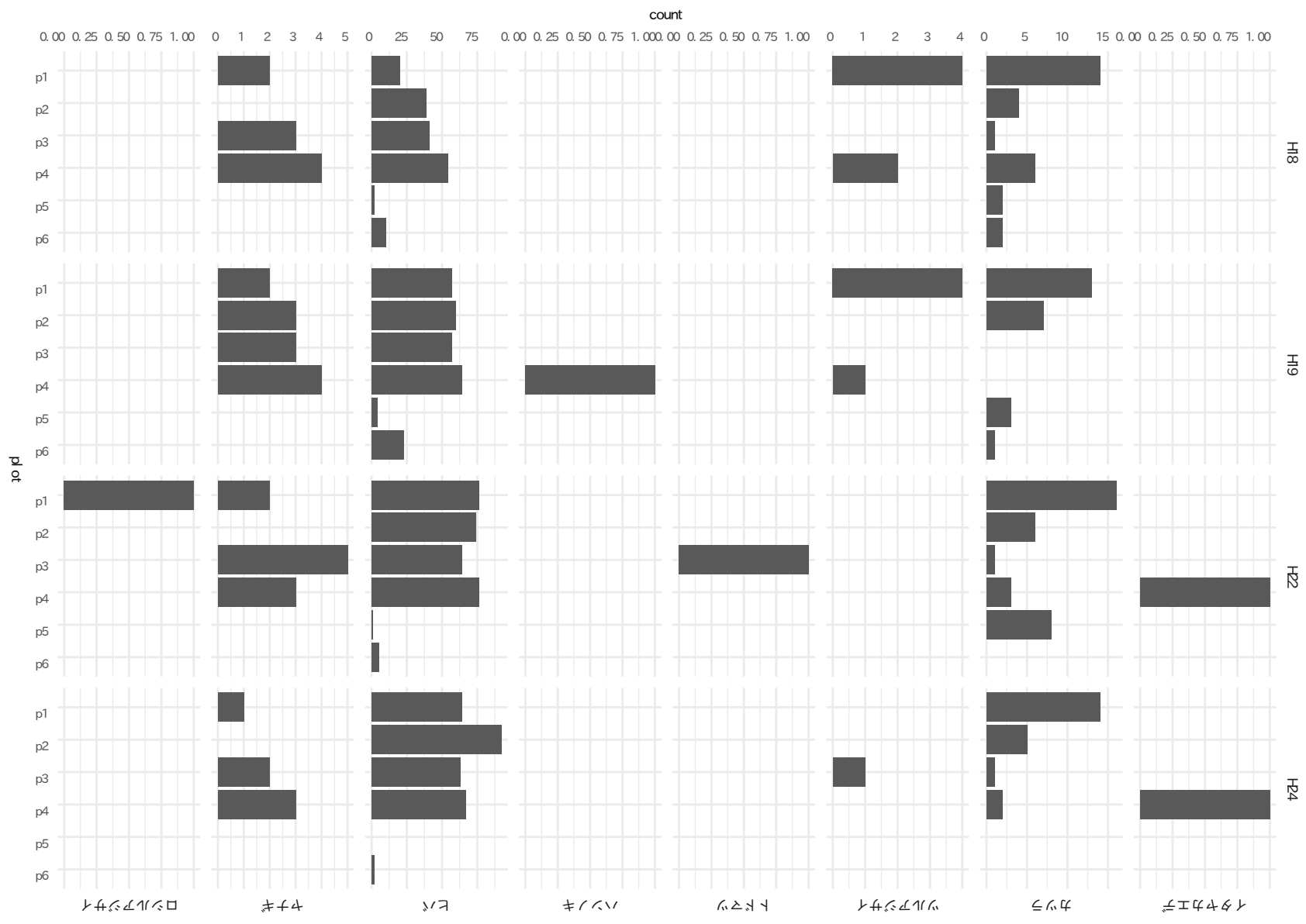


図 3 稚樹の出現数

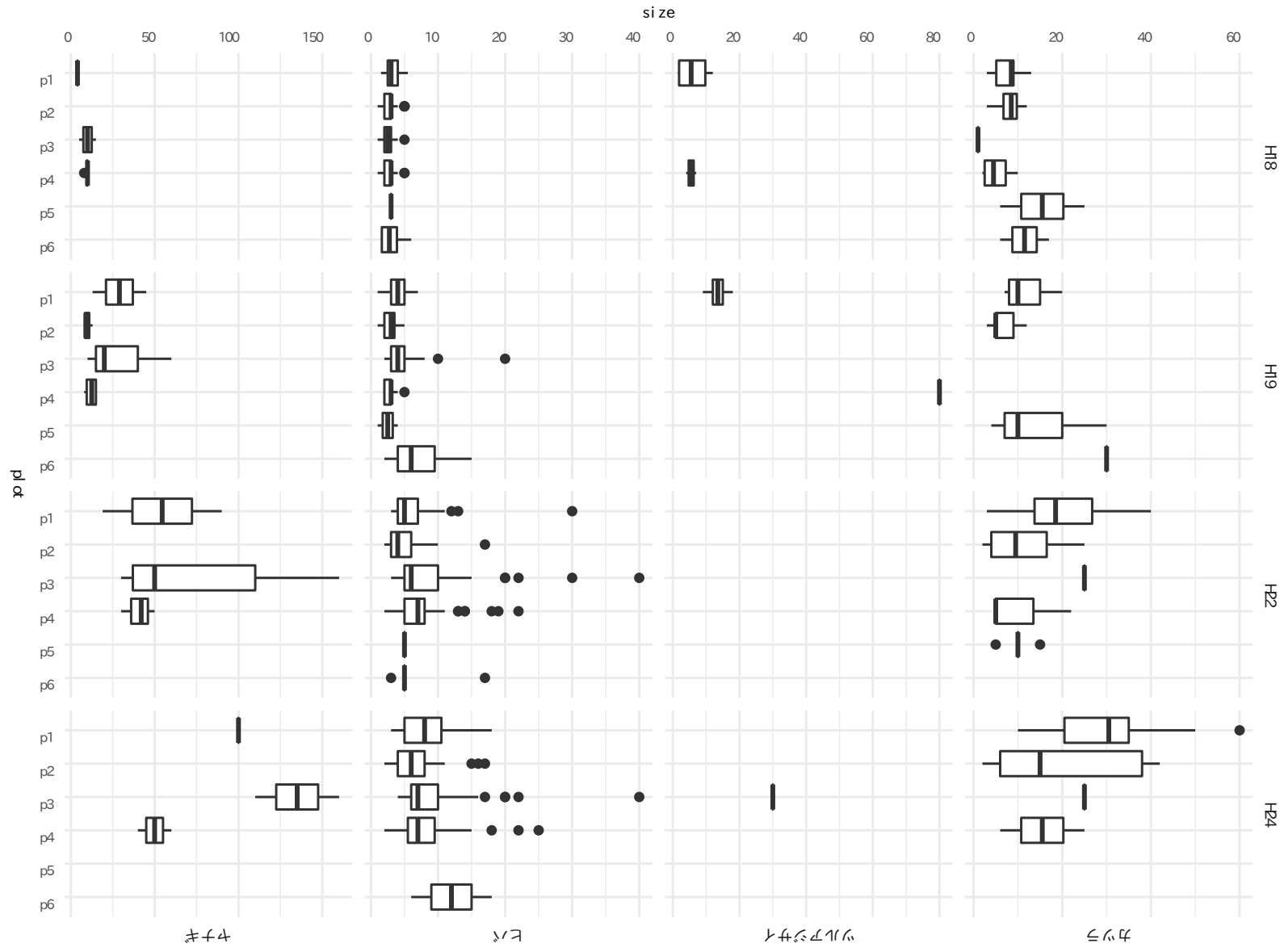


図 4 稚樹のサイズ

教育林土砂流出調査実施要領

厚沢部町教育委員会事務局

平成 29 年 月 日

1 調査の目的

教育林内のヒノキアスナロ人工林が土砂流出におよぼす影響を明らかにする。

2 調査の方法

2.1 調査手法

設置が比較的容易で、材料費等が低価な土砂受け箱によるリターや土壌の流量確認を行う。土砂受け箱については森林総合研究所（1993）の手法を参考として自作する。

2.2 土砂受け箱の仕様

以下のとおり、縦 20cm、横 25cm、高さ 15cm の木枠の後面に寒冷紗を張りつけたものとする。

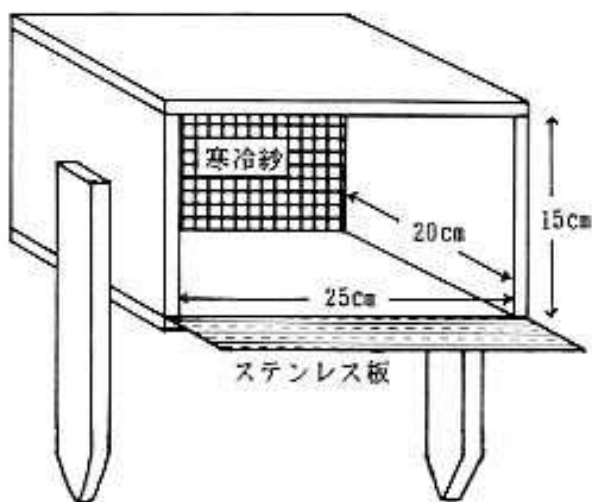


図1 土砂受け箱設計図

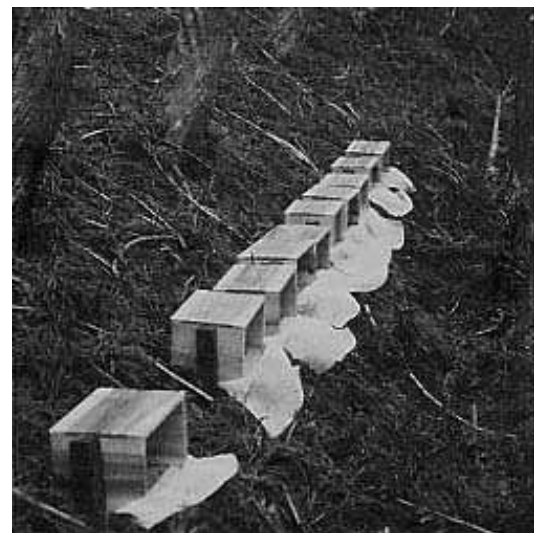


図2 土砂受け箱設置イメージ

2.3 土砂受け箱の設置箇所

比較のため、以下の4箇所に土砂受け箱を設置する。人工林の土砂移動量の比較対象として、ヒノキアスナロ天然林内と広葉樹天然林内にそれぞれ1箇所ずつ設置する。土砂受け箱の設置位置は15~20度の傾斜地点を選定する。

- 人工林内 2 箇所
- ヒノキアスナロ天然林内 1 箇所
- 広葉樹天然林内 1 箇所

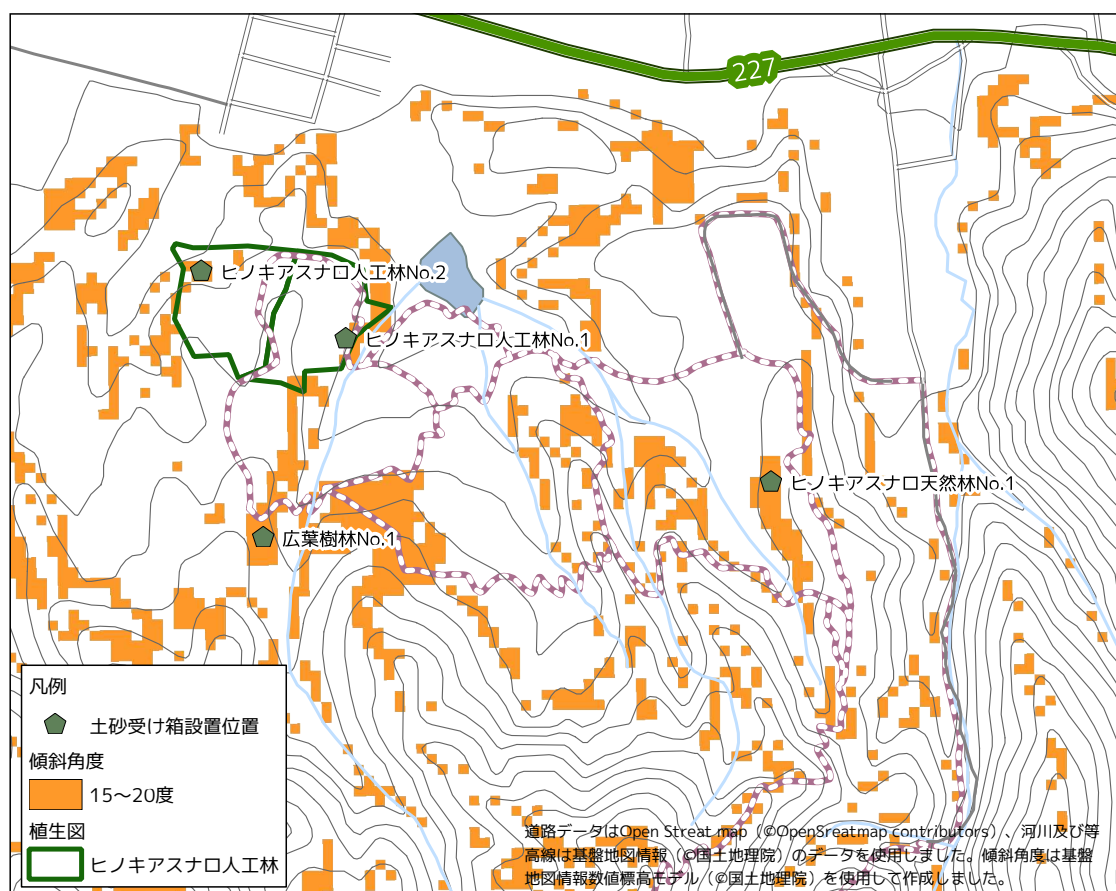


図3 土砂受け箱設置位置

2.4 調査要領

- 土砂受け箱は調査箇所ごとに5個ずつとし、等高線に沿って1mの間隔で配置する。
- 平成30年5月1日~平成30年11月30日を調査期間とする。
- 土砂受け箱の内容物は各月末に回収する。
- 時間あたり降雨量が20mmを超える「強い雨」の後は別途回収する。
- 土砂受け箱ごとに土砂と堆積有機物に選別し、それぞれ重量を計測する。

3 調査結果の分析方法

土砂受け箱ごと、調査地点ごとに以下の結果を算出する。

- 日あたりの土砂及びリター移動量
- 降雨量（mm）あたりの土砂及びリター移動量